平成30年度鳥取大学 地域課題研究成果報告会 in 鳥取

日時 平成30年 11月28日 水曜日 17:00～18:50

会場 とりぎん文化会館 第1会議室

テーマ：地域の一次産業基盤強化

鳥取大学では、地（知）の拠点整備事業による地域志向教育研究など、長年にわたって進めてきた地域連携の実績を踏まえつつ、地域の創生に貢献することを目的として「地域価値創造研究教育推進プログラム」に取り組んでいます。上記について、平成29年度に実施した事業の研究成果をみなさまにご紹介します。

5分間 開会挨拶 鳥取大学地域連携担当理事　法橋 誠

15分間 施策紹介 **農業生産1千億円を目指して**

鳥取県農林水産部農業振興戦略監　木嶋哲人氏

35分間 発表 …1 **「山陰地方の駆除獣から得られる生理活性糖鎖や機能性タンパク質を利用する地域産業基盤システムの確立」**

農学部 教授　田村 純一　　連携先：鳥取県元気づくり総本部

近年、山陰地方では増加する鳥獣（猪・鹿）害により山林・耕作地の荒廃や農林業へ多大な被害がもたらされている一方で、駆除獣の付加価値化を含めた有効利用がほとんど進んでいないのが現状です。また、鳥取県の農林業従事者数は70歳代に就労者数のピークが形成されており、高齢化の進行も問題となっています。本事業では、一次産業の振興や一次産品を活用できる産業基盤技術を開発し、その技術を利用して山陰地方に雇用を創出できる社会システムの構築を目指しました。

45分間 発表 …2 **「中山間地域を支える鳥大発小区画大規模農作業管理モデルの構築」**

農学部 教授　山口 武視　　連携先：八頭町産業観光課

中山間地域は高齢化と過疎化のため、近い将来集落の崩壊も懸念されています。しかし、地方に新たな産業を創造することは難しく、そうであるなら現状をいかに維持するかが課題となります。この一方策として、「少人数で農地を管理するシステムの模索」および「廃れゆく篤農技術の記録・収集」があげられます。「少人数で農地を管理するシステムの模索」については、農産物の生産過程の実態を見える化（作業記録のデジタル化）することで、効率化できる作業管理を洗い出すとともに、機械化（ロボット化）できる栽培体系を点検しました。これらにより、少人数作業管理モデルの構築を目指しています。また、「廃れゆく篤農技術の記録・収集」については、後生に篤農技術を継続できるようにするため、熱心な篤農家が栽培管理する柿樹を詳細に調査しました。

コメント **学生の立場で事業に携わった意義・感想**

鳥取県西部総合事務所農林局西部農業改良普及所大山普及支所　岡崎悠希氏（鳥取大学農学部卒業生）

10分間 説　明 **地域価値創造研究教育推進プログラムについて**

鳥取大学地域価値創造研究教育機構副機構長　大場 尚志

お申込み方法　メールに「お名前」、「ご所属名」をご記入の上、下記メールアドレスまで送信してください。
coc-plus.office@ml.adm.tottori-u.ac.jp

お問い合わせ先　〒680-8550　鳥取市湖山町南4丁目101番地　TEL:0857-31-5922（担当:森田）

申込締切 11月26日（月）

主催:鳥取大学 地（知）の拠点大学による地方創生推進室

鳥取大学 Tottori University　文部科学省 地（知）の拠点